



静か過ぎる 2009 新年

2009年、新年は静か過ぎる状態でやってきました。

とにもかくにも動かない。動きがまったくゼロというわけではないですが、各種様々な工場に動きが見えないのです。新聞やテレビ、ネットのニュースでも減産、減産で工場の稼働率はのきなみ低下し、人員の削減や臨時休業などで、動きがあるのは生産に対してマイナス情報のみのように感じられます。

これは日本のみならず、世界中で同じような状況が起こっていることと推測されます。世界中の工場がバブル並みの需要を満たすだけの生産能力と、生産計画、さらに伸びるであろうと思われる消費のために動いてきました。それが突然失速、需要もどんどん下がり、消費も伸びるどころか下がる一方という状況に陥りました。ゆっくりとした坂を下るのならまだ対応も緩やかであったでしょうが、これだけの下げはまさに崖を落ちるといった言葉が当てはまり、各企業の急激な対応もやむなしといったところでしょう。

アメリカのサブプライムが発端と言われますが、これについては複雑な要素がからまり、真実は闇の中で終わってしまうのでしょうか。色々な本が出ておりますが、どれも本当のようで、どれが真実かはわかりません。どれにもこれにも信憑性があるように思えます。さて、世界の話は各種媒体で読んでいただくとしたしまして、今回はわが国のアルミスクラップの現状を見たいと思います。

安定か？ 激動か？ アルミの2009

余り物に値段無し。こんな状態が続いているのがアルミスクラップです。すでに需要側(自動車メーカー等)と供給側(二次合金メーカー)のバランスが崩れ、需要の大幅な減少に対し、供給側は減産・入荷制限にて対応しております。需要が大幅減少ですから先行して仕入れた分は製品にしても売れず、通常在庫は過剰在庫へと変化していきます。この為、アルミスクラップを購入している各社は買い止めに入ります。値段を聞けば価格は出ますが、入荷制限中ですから実際は収まらない。さらにアルミの指標であります LME(London Metal Exchange)を見ても、日に日に在庫が膨れ上がり、すでに過去最高水準を軽々超え、止まることを知らずに増え続け、バージン材(新塊という)価格の下落を招いております。

例えばアルミ缶ですが、市中の発生量に多少の増減はあるものの、必ず発生してきます。これから再びアルミ缶を作るわけですが、その全量がまたアルミ缶に戻るわけではありません。その他の用途にも使用するということが需要があり、価格が上昇または維持されていたのです。このような経済状況になりその他の用途が大幅に減ってしまい、さらに新塊の値段が大幅に下がっているとすればそれを使います。混ざり物がないのですから成分調整もやりやすいのです。このような状況の中でもスクラップを使うメリットは何かといえば安さです。リサイクルしなければリサイクルシステムの崩壊ということも大いにありますが、やはり企業はまず利益を出さねばなりません。そうすると当然新塊に劣るアルミ缶の値段はどんどん下がっていきます。現在もこの流れに変化はありません。ただ、希望的観測で言わせてもらおうとすれば、4月以降新年度に入り新たな生産計画が動き始めれば徐々にではあると思いますが動くと思っております。

インフルエンザ

今年は大流行といわれております。流行にはなって欲しくないのですが・・・さて、このインフルエンザですが、家庭内で一人が感染した場合に家族はどの程度キャリアとなるのでしょうか。発症していなければ問題はないのでしょうか。悩む今日この頃です。